

単元名 資料を使って、効果的なスピーチをしよう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解することができる。
- (2) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫するとともに、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。
- (3) 資料を活用して自分の考えを表現し、聞き手の知識や反応等に応じてより効果的なスピーチにしようとする。

標準的な展開例

06010307_001

【教材名】今、私は、ぼくは (P. 212～P. 215)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★資料を使って、効果的なスピーチをしよう。</p> <p>○「将来どんな自分でありたいか」について意見を出し合う。</p> <p>○教科書 (P. 7) 「五年生の学びを確かめよう」を見るなどして、これまでの「話すこと・聞くこと」の学習を振り返り、「資料を使って、効果的なスピーチをしよう。」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>○教科書 (P. 212) を読み、学習の手順を知る。</p> <p>2 スピーチの内容と構成を考える。</p> <p>○スピーチの話題を決め、内容を整理する。</p> <p>○発表の仕方を確認する。</p> <p>○スピーチの内容と構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい思いは何か。 ・初め・中・終わりに話すことは何か。 ・話し始めをどうするか。 <p>○発表に必要な資料について知る。</p> <p>3～4 構成を基に原稿を作り、資料を準備する。</p> <p>○CDを聞き、スピーチの様子を捉える。</p> <p>○構成を考えて、スピーチメモを作る。</p> <p>○教科書 (P. 214) 「矢島さんの提示する資料」を読み、資料を準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表 ・写真や絵など <p>○スピーチの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい速さ ・声の大きさや強弱 ・発音、声の高さや低さ ・声の調子 ・間の取り方 ・姿勢、視線、表情など 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの意見を取り上げることで、さまざまな角度からたくさんの思いをふくらませることができるようにする。 ・これまでのスピーチを振り返らせながら、話の構成や話し方を工夫して、今の思いが伝わるように資料を活用してスピーチするというめあてをもたせる。 ・構成では「初め・中・終わり」を押さえる。 ・みんなで出し合った「将来どんな自分でありたいか」を基に、スピーチの話題を決めさせる。 ・スピーチは、いつ、誰に向けて、どのような場で、一人何分ほどで話すのかを明確にすることにより、見通しをもたせる。 ・教科書 (P. 213) 「矢島さんのスピーチメモ」を参考に、「初め・中・終わり」の大体の内容を考える。 ・伝えたいことの中心をはっきりさせ、スピーチの構成を考えさせる。 ・話し始めの例をいくつか挙げ、組み立てを考える必要感をもたせる。 【評】スピーチの内容と構成を考える活動を通して、話の構成や展開についての「知識・技能」を評価する。 ・教科書 (P. 213) 「矢島さんの提示する資料」を参考に、次時以降に準備していけるように確認する。 ・CDを聞きながら、気付いたことや自分が取り入れたいことなどをメモさせる。 ・話し言葉で表現させる。 ・児童の実態に合わせて、原稿をある程度覚えさせるのか、スピーチメモを基に語らせるのかを決めるとよい。 【評】スピーチメモを作る活動を通して、話の構成を考える「思考・判断・表現」を評価する。 ・聞き手の印象に残るように、聞き手に合わせて情報をしぼり、図表等を積極的に用いて提示資料を作る。 ・特に伝えたいところについては、資料の書き方についても工夫させる。 ・用紙として見せる資料だけでなく、実物や実演、写真の提示、黒板に書き写すなどの工夫について知らせてもよい。 ・教科書 (P. 264) 「デジタル機器を使って、プレゼンテーションをしよう」を参考にしてもよい。 【評】資料を準備する活動を通して、表現を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。 ・聞き手の心に届くスピーチにするために、使う言葉や話し方、資料の見せ方など、工夫したいことをスピーチメモに書き込む。 ・教室の四隅を活用したり、衝立を用いて発表ブースを作ったりするなど、学習形態を工夫することで、集中して練習に取り組めるようにする。

5～6 スピーチの会を開き、学習を振り返る。

- 話し手・聞き手の心構えについて確認する。
 - ・話し手……話し方を工夫し、聞き手によく分かるように話す。
 - ・聞き手……話し手の意図を考えながら聞く。
- スピーチの会を開く。

○スピーチの会を振り返り、感想をまとめる。

- ・グループで練習させ、お互いに助言させてもよい。
 - ・話し手・聞き手の心構えがひと目で分かるように、黒板に示す。
 - ・プログラムに従い、スピーチを進めさせる。
 - ・簡単なメッセージカードを用意し、聞き手が感じたことや考えたことを書かせ、話し手に渡すと、自分のスピーチが聞く人の心に届いたという実感をもたせることができる。
- 【評】スピーチ活動を通して、資料を活用して自分の考えを表現しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・マイナスの面よりもプラスの面が見付けられるように、声をかける。
 - ・プラスの面が見付けられない児童には、教師がよくできたところを賞賛するようにする。
 - ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。

【 備 考 】